



企業経営動向調査による景況感の現状および見通しについて

(2020年6月実施)

百十四銀行（頭取 綾田 裕次郎）は、香川県内民間企業の景況感に関するアンケート調査を実施し、その結果をまとめましたのでお知らせします。

【調査要領】

調査対象	香川県内に本社または主工場をもつ企業：438社
調査方法	郵送及びWebによるアンケート方式
調査時期	2020年6月3日～2020年6月30日
回答状況	有効回答企業数：292社 有効回答率：66.7%
調査委託先	一般財団法人 百十四経済研究所

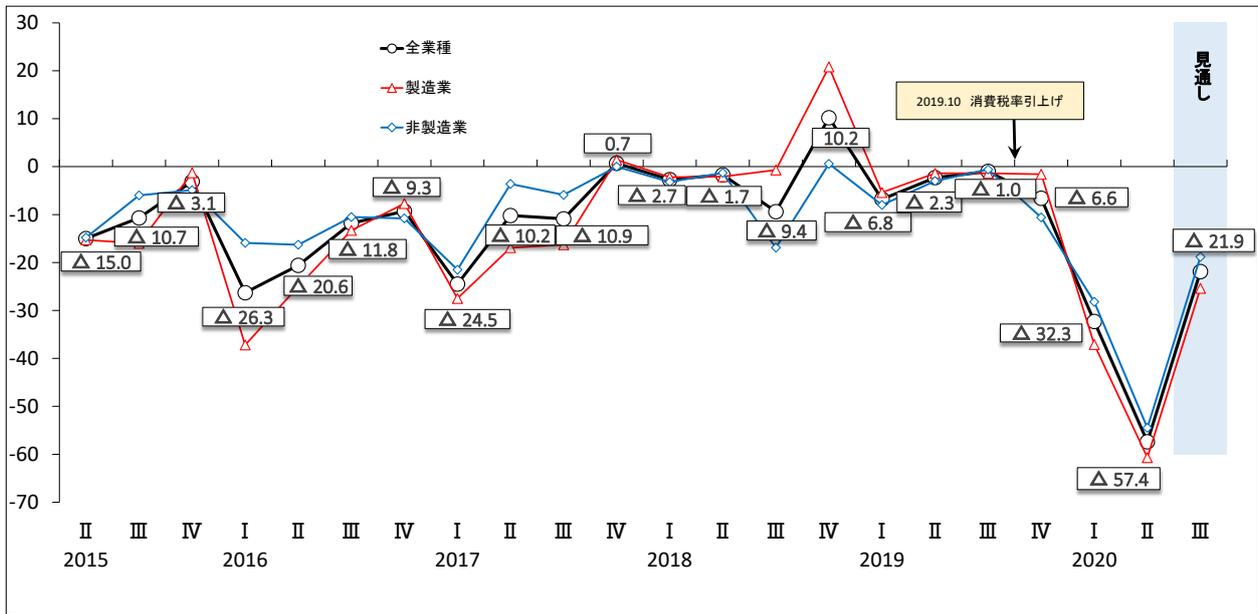
香川県内企業経営動向調査による景況感の現状および見通しについて (2020年6月実施) ～景況感は更に大幅悪化～

1. 全体の概況

今期（2020年4～6月期）県内企業の業況判断BSI（全業種）は、前期の△32.3から25.1ポイント低下し△57.4となった。製造業は、前期の△37.1から23.6ポイント低下し△60.7となった。非製造業は、前期の△28.2から26.3ポイント低下し△54.5となった。

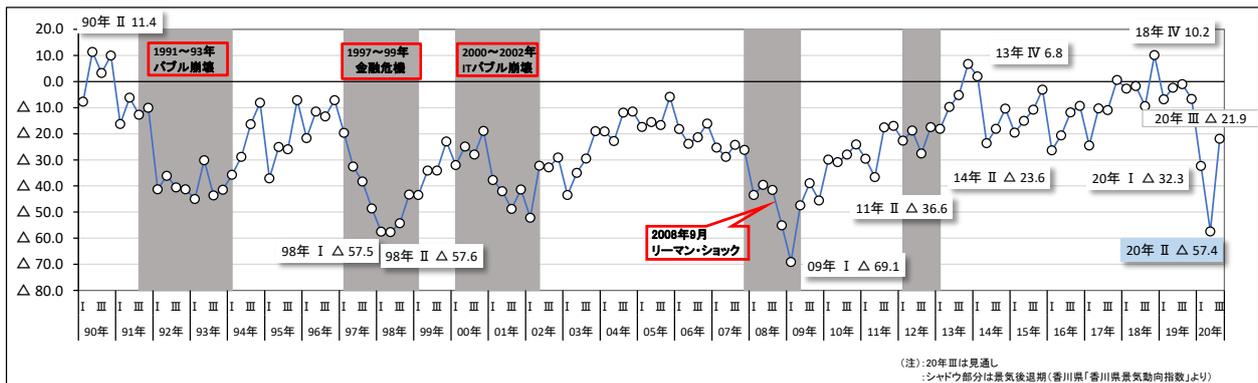
来期BSI（全業種）は、今期の△57.4から35.5ポイント上昇し△21.9となる見通し。製造業は、今期比35.3ポイント上昇し△25.4、非製造業は、今期比35.7ポイント上昇し△18.8となる見通し。

業況判断BSI（全業種・製造業・非製造業）



業種	実績												見通し	
	2017 II	III	IV	2018 I	II	III	IV	2019 I	II	III	IV	2020 I	II	III
全業種	△10.2	△10.9	0.7	△2.7	△1.7	△9.4	10.2	△6.8	△2.3	△1.0	△6.6	△32.3	△57.4	△21.9
製造業	△16.9	△16.3	1.4	△2.2	△2.1	△0.7	20.8	△5.4	△1.4	△1.4	△1.6	△37.1	△60.7	△25.4
非製造業	△3.6	△5.9	0.0	△3.2	△1.3	△16.9	0.6	△8.0	△3.0	△0.6	△10.6	△28.2	△54.5	△18.8

業況判断BSI 長期推移



2. 業況判断 BSI

(1) 今期 (2020年4~6月期) 実績

今期 BSI は、新型コロナウイルス感染症が幅広い業種に影響して、前期の△32.3 から 25.1 ポイントと大きく低下し△57.4 となった。リーマン・ショック後の 2009 年 1~3 月期 (△69.1) に次ぎ、バブル崩壊後の金融危機の 1998 年 4~6 月期 (△57.6) ・1~3 月期 (△57.5) と同水準の悪化となった。

業種別でみると、製造業は前期の△37.1 から 23.6 ポイント低下し△60.7 となった。その内訳をみると、基礎素材型は、金属製品製造業などが悪化し前期比 14.7 ポイント低下。加工組立型は、機械器具製造業などが大きく悪化し前期比 41.6 ポイント低下。生活関連型は、食料品製造業や印刷業、繊維工業などが悪化したことから前期比 21.7 ポイント低下した。

非製造業は、前期の△28.2 から 26.3 ポイント低下し△54.5 となった。その内訳をみると、建設業は、前期比 38.1 ポイントの低下。卸売・小売業は、飲食品小売業や機械器具・建築材卸小売業などが悪化し前期比 28.0 ポイント低下。運輸業は、旅客運送業、貨物運送業が悪化したことから前期比 33.3 ポイント低下。サービス業等は、不動産賃貸業、広告業・飲食業などが悪化したことから前期比 17.7 ポイント低下した。

(2) 来期 (2020年7~9月期) 見通し

来期 BSI は、緊急事態宣言解除に伴う経済活動再開への期待感から、今期の△57.4 から 35.5 ポイント上昇し△21.9 となる見通し。

業種別でみると、製造業は、今期の△60.7 から 35.3 ポイント上昇し△25.4 となる見通し。その内訳をみると、基礎素材型は、パルプ・紙・紙加工品製造業や金属製品製造業などが回復を見込み今期比 19.1 ポイント上昇。加工組立型は、機械器具製造業などが回復を見込み今期比 21.7 ポイント上昇。生活関連型は、食料品製造業や繊維工業などが回復を見込み今期比 60.5 ポイント上昇する見通しである。

非製造業は、今期の△54.5 から 35.7 ポイント上昇し△18.8 となる見通し。その内訳をみると、建設業は、横ばい。卸売・小売業は、機械器具販売業などが好転を見込み今期比 45.8 ポイント上昇。運輸業は、旅客運送業などが回復を見込み今期比 44.4 ポイント上昇。サービス業等は、飲食・宿泊業などが回復を見込み今期比 37.4 ポイント上昇する見通しである。

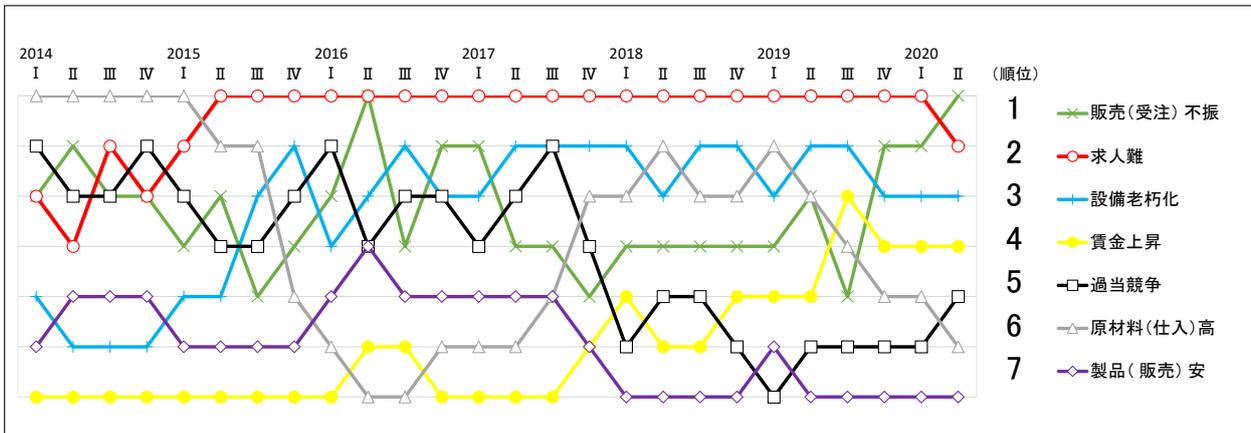
業種別業況判断 BSI

業種	実績												見通し	
	2017 II	III	IV	2018 I	II	III	IV	2019 I	II	III	IV	2020 I	II	III
全業種	△ 10.2	△ 10.9	0.7	△ 2.7	△ 1.7	△ 9.4	10.2	△ 6.8	△ 2.3	△ 1.0	△ 6.6	△ 32.3	△ 57.4	△ 21.9
製造業	△ 16.9	△ 16.3	1.4	△ 2.2	△ 2.1	△ 0.7	20.8	△ 5.4	△ 1.4	△ 1.4	△ 1.6	△ 37.1	△ 60.7	△ 25.4
基礎素材型	3.7	0.0	△ 12.0	△ 4.5	△ 8.5	6.5	20.8	△ 7.7	△ 5.8	△ 18.4	△ 4.8	△ 34.2	△ 48.9	△ 29.8
加工組立型	△ 5.6	△ 10.5	5.6	9.1	10.5	9.5	22.7	14.3	△ 2.4	9.1	△ 15.8	△ 15.2	△ 56.8	△ 35.1
生活関連型	△ 36.8	△ 31.4	10.0	△ 6.6	△ 5.5	△ 14.8	19.2	△ 18.5	4.1	6.4	13.0	△ 52.8	△ 74.5	△ 14.0
非製造業	△ 3.6	△ 5.9	0.0	△ 3.2	△ 1.3	△ 16.9	0.6	△ 8.0	△ 3.0	△ 0.6	△ 10.6	△ 28.2	△ 54.5	△ 18.8
建設業	△ 6.7	△ 6.3	6.3	8.3	0.0	△ 10.0	10.0	16.7	△ 9.1	4.2	5.0	0.0	△ 38.1	△ 38.1
卸売・小売業	0.0	2.5	5.6	4.7	2.1	△ 9.8	8.2	△ 18.0	0.0	0.0	△ 32.0	△ 17.8	△ 45.8	0.0
運輸業	△ 22.2	△ 33.3	△ 37.5	0.0	△ 9.5	△ 41.2	12.5	△ 6.3	△ 12.5	29.4	6.3	△ 50.0	△ 83.3	△ 38.9
サービス業等	0.0	△ 10.0	0.0	△ 12.3	△ 1.4	△ 17.9	△ 9.3	△ 9.7	△ 1.3	△ 10.0	△ 4.1	△ 40.3	△ 58.0	△ 20.6

3. 経営上の問題点

経営上の問題点を複数回答で尋ねたところ、「販売（受注）不振」が最も多く、続いて「求人難」、「設備老朽化」、となっている。前期まで「求人難」が20期連続で1位だったが、今回は回答企業292社のうち177社が「販売（受注）不振」を問題点に挙げ、1位となった。

経営上の問題点 順位の推移（上位7項目）



【企業経営動向調査概要】

- ① 調査時期：2020年6月3日～2020年6月30日
(毎年3・6・9・12月実施)
- ② 調査事項：業況、受注高、生産高、売上高、在庫高、資金繰り、銀行借入、設備投資、雇用、採算の各項目別BSI、設備投資目的、採算の好転・悪化要因、経営上の問題点
- ③ 調査方法：郵送及びWebによるアンケート方式
- ④ 調査対象：県内に本社または主工場を持つ主要企業438社
- ⑤ 有効回答率：66.7%（有効回答数292社）

【業種別回答数及び構成比】

業種	回答社数	構成比
全業種	292	100.0%
製造業	135	46.2%
基礎素材型	47	16.1%
加工組立型	37	12.7%
生活関連型	51	17.4%
非製造業	157	53.8%
建設業	21	7.2%
卸売、小売業	48	16.4%
運輸業	18	6.2%
サービス業等	70	24.0%

【7業種区分】

製造業	
基礎素材型	木材・木製品製造業（家具を除く）、パルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業
加工組立型	はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業
生活関連型	食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、家具・装備品製造業、印刷・同関連業、なめし革・同製品・毛皮製造業、その他製造業
非製造業	
建設業	総合工事業、識別工事業、設備工事業
卸売・小売業	飲食料品、一般商品、繊維・衣料品等、建築資材、金属材料、機械器具等の卸売・小売り
運輸業	陸運、海運、空運、倉庫業、荷役業ほか
サービス業等	情報通信業、不動産業・物品賃貸業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、機械整備ほか